



ブナブナブーナ プロジェクト

校長 森澤 克行

今年度六甲山小学校は、神戸市教育委員会より、環境教育重点校の指定を受け、昨年度の防災学習「砂防は希望」の提案を具現化した環境教育に取り組むことになりました。プロジェクト名は、「ブナブナブーナプロジェクト」。活動の中心となる教材として「ブナ」を位置付け、六甲山のブナの環境保全に取り組むことで、災害に強い街づくりの一翼を担うことができれば考え、活動を展開していきます。

そこで5月、「ブナを植える会」会長の桑田 結 様にいろいろとアドバイスをいただき、大まかな活動の流れを考えました。

まずひとつめは、オルゴールミュージアム前のブナ林の除草です。このブナ林には、22本のブナが植えられています。どうしても根元付近に雑草が生え、ブナの生育に支障を来します。そこで雑草を刈る作業を夏と秋の年2回、山の子班で行います。併せて、「ブナを植える会」の方々よりブナについてのお話を伺い、今回、そしてこれからの作業の意義を学びます。

次に、ブナの苗作りに挑戦します。本来であれば、秋に実ったブナの実を発芽させ、苗づくりを行えばよいのですが、最近、六甲山のブナは実をつけなくなっているのだそうです。そこで、今回は「とり木」という手法を用います。「とり木」というのは、若い苗の枝の一部を土に埋めることによって、発根させるものです。切り取った枝を土に挿す、いわゆる「挿し木」ではありません。枝を切り取るのではなく、苗木を地面近くまで傾かせて、枝の一部を土に埋めるのです。発根したら、その枝を切り取り、苗として育てていきます。発根するまでには1年ほどかかりますが、このいわゆる「クローン」を作る方法が成功すれば、どんどん苗木を作りブナを増やしていくことが可能となります。この「とり木作戦」をなんとか成功させ、ブナ林を拡張する方向にもっていきたいものです。

今まで、小学校で行う環境教育は、単年度で成果の出る活動展開が主でありましたが、今回は、何十年、何百年といった時間のスケールで取り組む全く新しい活動です。六甲山小学校に入学する次の世代に引き継ぎながら、ゆっくりと、しかし確実に環境、そして防災教育を推進していくスロープロジェクトです。しかし、そもそも環境保全とは、そのようなものではないでしょうか。自然が、本来の自然の力を活用して、自らの力で自然を回復し、従来持っていた機能を復元する。人より長く生きる植物の時間軸でとらえていきたいと考えます。

さて100年後、200年後、この「ブナブナブーナプロジェクト」が功を奏し、六甲山に再びブナ林が復活し、緑のダムとして神戸市民をそして神戸の街を守ることができるでしょうか。壮大なプロジェクトの始まりです。是非長い目で応援していただければと思います。

(ツゲ池魚捕り)

